

びわこ文化公園植物だより〔β版〕

サザンカ ツバキ科

- ・学名 *Camellia sasanqua*
- ・園内に植栽、花期は10月～12月



秋も深まり、公園内で開花する植物が少なくなってきたこの時期、ひときわ目を引く大きな花をつけた植物を見かけます。それは、「サザンカ」です。

サザンカは、四国、九州、沖縄の山地に自生する常緑広葉樹です。本州で見られる個体はほとんどが植栽となっており、園芸種の種類が豊富な種です。野生種が6～7弁で一重咲きの白花であるのに対して、園芸種は江戸時代初期から品種の選抜が行われ、桃色や紅色の花や八重咲きのものなど多くの種類が存在します。現在では、欧米やオーストラリア、中国でも栽培され、アメリカで優秀新品種に賞が授与されるなど、世界中で愛される日本原産の園芸種となっています。

そんなサザンカは、同じツバキ科のツバキとよく似た見た目をしています。どのように見分けられるのでしょうか。見分け方のポイントとしては以下の三点が挙げられます。

一つ目は花弁の落ち方です。ツバキは花が丸ごと落ちますが、サザンカは、花弁が1枚ずつ散っていきます。

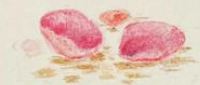
二つ目は雄しべの花糸の付き方です。ツバキの

サザンカ

ツバキ

花卉の落ち方

一枚ずつ散る



花ごと落ちる



花系の付き方

花系



毛の有無



花糸は半分程度接着し、茶せんのような形をしています。サザンカは、一本一本が離れています。

三つ目は、若枝の毛の有無です。ツバキは若い枝に毛はありませんが、サザンカはうっすらと毛が生えているのが分かります。

ツバキの花期は2～4月でサザンカは10～12月であり、花期による区別も出来ますが、品種により、時期が被るものもあるため注意が必要です。

ところで、サザンカは漢字で書くと「山茶花」と書き、なかなかサザンカと読みにくく感じますが、どうしてこのような漢字を用いているのでしょうか。それは、中国の書物内の植物と日本の野生植物を当てはめる過程の中で、中国名でツバキを表す「山茶花(さんさか)」がサザンカに当てはめられ、その後、江戸時代の園芸家による誤記により、「茶山花(ささんか)」となったことが原因であるといわれています。



サザンカは童謡「たきび」でも登場し、冬の寒い時期を子供から大人まで楽しませてくれる植物であることが分かります。文化公園では白色と赤色のサザンカを見ることができます。寒くなると家から出る事が億劫になりますが、ぜひ文化公園にサザンカを楽しみに来てください。

(龍谷大学先端理工学部 栞原萌葉)